

管内関係機関 担当者 様

感染症発生動向について

このことについて令和8年第9週(2月23日～3月1日)の動向をお知らせします。

定点あたり患者数(1医療機関当たりの平均報告数)

感染症の種類	県北保健所管内 (平戸市、松浦市、佐々町)			長崎県	全国
	7週	8週	9週	9週	9週
インフルエンザ	●65.00	●48.67	●28.33	●25.49	22.66
新型コロナウイルス感染症	0.33	0.67	0	0.88	1.34
RSウイルス感染症	0	0.50	0	0.58	0.49
咽頭結膜熱	●4.50	●5.00	0.50	0.29	0.21
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2.00	0	0.50	2.00	2.21
感染性胃腸炎	12.00	8.00	8.50	4.48	6.31
水痘	▲1.00	0.50	0	0.26	0.29
手足口病	0	0	0	0.29	0.05
伝染性紅斑	●4.50	●2.50	0.50	0.13	0.12
突発性発疹	0	1.00	1.00	0.29	0.18
ヘルパンギーナ	0	0	0	0.03	0.01
流行性耳下腺炎	0	0	0	0	0.02
急性出血性結膜炎				0	0.01
流行性角結膜炎				1.00	0.36
細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0.02
無菌性髄膜炎	0	0	0	0	0.03
マイコプラズマ肺炎	0	1.00	0	0.25	0.25
クラミジア肺炎	0	0	0	0	0.01
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	0	0	0	0.08	0.06

急性呼吸器感染症 (ARI)	102.33	79.33	47.67	75.63	64.96
----------------	--------	-------	-------	-------	-------

●:警報レベル ▲:注意報レベル

【トピックス】 インフルエンザが流行しています。

長崎県の第9週の患者報告数は1300人で、定点あたり報告数は25.49となりました。3週続けて減少しましたが、警報レベルの報告数が15週間継続しています。地区別にみると、10保健所のうち9保健所で警報レベルの報告数となっています。年代別では、10歳未満(669人、52%)、10代(408人、31%)が多くなっています。今後も手洗い・手指消毒、適切なマスクの使用、換気などの基本的な感染対策を励行し、予防に努めましょう。

【トピックス】 海外渡航の際は、感染症に注意しましょう。

春休みを利用して海外に出かける方の増加が予想されます。海外では、日本に常在しない感染症や日本よりも高い頻度で発生している感染症が報告されています。海外滞在中にこれらの感染症への感染を防止するためには、予防方法を知っておくことが重要です。厚生労働省のホームページには海外の感染症の発生状況や予防方法に関する情報が掲載されていますので、渡航先の情報を入手し、体調管理に努めましょう。

また、帰国後に症状が出た場合は、医療機関に相談・受診しましょう。その際には、旅行先や滞在期間、飲食状況、渡航先での職歴、家畜や動物との接触の有無などについて必ず申し出ましょう。

【トピックス】 マダニやツツガムシが媒介する感染症に注意しましょう。

マダニ類やツツガムシ類は、野外の藪や草むらに生息しているダニで、野生動物が出没する環境に多く生息しているほか、民家の裏山、裏庭、畑やあぜ道などにも生息しています。マダニ類は「日本紅斑熱」や「重症熱性血小板減少症候群(SFTS)」を媒介し、ツツガムシ類は「つつが虫病」を媒介します。春から秋(3月から11月)にかけてはマダニ等の活動が活発になり、これらの感染症のリスクが高まります。

マダニ等が媒介する感染症の予防には、ダニに咬まれないことが重要です。野外で活動する際は、長袖、長ズボン、長靴を着用するなどして肌の露出を極力避け、マダニに有効な虫よけ剤を使用して感染防止に心がけましょう。もし、マダニ等に咬まれていたことに気づいた場合、無理に取り除こうとせず、皮膚科等の医療機関で適切に処置してもらいましょう。また、咬まれた後に発熱等の症状があった場合は、速やかに医療機関を受診しましょう。受診した医療機関では、咬まれた状況などをできるだけ詳細に説明しましょう。

SFTSに関しては、近年、SFTSを発症したネコ及びイヌの症例が確認されており、これらの動物の血液や糞便からSFTSウイルスが検出されています。SFTS以外の感染症に対する予防の観点からも、動物を飼育している場合は過剰な触れ合いを控え、動物由来の感染に注意しましょう。